

福井県若狭にある原発、14基。

放射能は、山を越えて私たちのもとまで一気にやってくる。

先人が守り続けてきた千年の古都、京都。

そのいとなみと文化は、失えない。

明日に引きつぐために。

3・11から半年。いま 原発NO!

原発から撤退、国が決定を。

安全な再生可能・自然エネルギーへ舵をきろう。

そして、原発に頼らない地域づくりへ。

いま、京都から、声を。

9.10 原発NO! 京都府民大集会

日時 2011年9月10日(土) 午後2時～

場所 円山音楽堂(雨天決行)

呼びかけ人のお話、福島県・福井県からの訴え(予定)など。
集会ののち、市役所前までアピールデモ

おしまい 原発。守ろう 古都。

● 呼びかけ人

安齋育郎氏 (安齋科学・平和事務所所長、立命館大学名誉教授、放射線防護学・平和学)

加藤利三氏 (京都大学名誉教授、物理学)

深尾正之氏 (元静岡大学教授、京都大学で原子炉・原子核の研究)

望田幸男氏 (同志社大学名誉教授、ドイツ近現代史)

連絡先

集会事務局／京都地方労働組合総評議会(京都総評)内 京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都5階 TEL 075-801-2308

「9・10原発NO! 京都府民大集会」の成功へ、 と一緒に、原発に「NO!」の声をあげましょう。行動を広げましょう。

2011年8月1日

● 呼びかけ人

安齋育郎氏 (安齋科学・平和事務所所長、立命館大学名誉教授、放射線防護学・平和学)

加藤利三氏 (京都大学名誉教授、物理学)

深尾正之氏 (元静岡大学教授、京都大学で原子炉・原子核の研究)

望田幸男氏 (同志社大学名誉教授、ドイツ近現代史)

福島第一原発事故は、国民の前に原発の危険性を事実でもって明らかにしました。原発はもともと危険な技術です。核燃料のメルトダウンと建屋の水素爆発によって、大量の放射性物質が環境中に広範囲に放出されました。周辺住民の避難、農業・畜産業・漁業などへの大きな打撃、とりわけ被ばくによる健康被害の心配は、将来にわたる深刻な影響として懸念せざるをえません。

歴代政府・電力関連企業が、「安全神話」をふりまき、批判を無視して原発大増設路線をとってきたことが、今回の深刻な事態を生み出したのです。しかし、政府や電力会社は、事故から4ヵ月が経過した現在においても、そのことへの根本的反省と政策転換について未だになんの表明もしないばかりか、九州電力の「やらせメール」事件に端的に示されるように、原発推進に固執し続けています。

一方、京都でも、全国でも、これまで「原発はやむをえない」と考えてこられた方もふくめ、広範な市民、学生、学者・研究者、宗教家、そして幼い子どもをもつ若いママ・パパが、「原発はもういらぬ」と声を上げ、運動を広げています。

もともと、日本に立地している原発で、大地震・津波にみまわれる可能性がないと断言できるものは一つもありません。また、京都に隣接する若狭湾には14基もの原発が集中立地しており、そのうち使用30年を越えた老朽炉が8基もあります。さらにプルトニウムを燃料とする高速増殖炉「もんじゅ」が、重大な事故の果てに運転を停止しています。これらの原発で重大な事故が起きたらどんなことになるのでしょうか。京都府は半径80キロ圏内にほぼ入ります。琵琶湖が汚

染されたら、先人が営々として築いてきた歴史都市・京都の文化や遺産、産業は台無しにされ、何十年にもわたって京都での社会生活は深刻な影響をうけることになるでしょう。

私たちは、自分たちの当面の利便のためにこんな危険なものを孫子の代まで残してはいけない、いまこそ危険な核エネルギーから安全な再生可能・自然エネルギーに舵をきるべき時だ、という思いで本集会を呼びかけました。

京都府民は、これまで京都府内での原発設置計画を許しませんでした。1975年、関電は久美浜に原発計画のための事前調査を申し入れてきましたが、住民の粘り強い反対運動の結果、2006年、ついにこれを撤回しました。今、こうした歴史を想起し、再び京都から日本全国へ「原発NO!」の声を大きく発信すべきときではないでしょうか。

ヨーロッパでは、ドイツ政府がエネルギー政策を大幅に見直し、原発からの撤退を決めました。またイタリアでは、原発復活計画の是非を問う国民投票で圧倒的多数の国民が復活に反対の意思を示しました。京都での運動を大きく広げ、世界のこのような流れに合流しようではありませんか。

原発からの撤退を、国の政策として決定させ、着実に、計画的に、そしてすみやかに原発廃止に向かうことを政府と電力会社に迫りましょう。

再び福島原発のような事故が繰り返される前に、一人ひとりが孫や子の世代への責任を果たすために、いまこそ「原発NO!」の声をあげましょう。